

# 中部ブロック会報 第29号

平成26年度中部ブロック研究会【1日目】2015年1月10日(土)【2日目】2015年1月11日(日)

開催地:愛知東邦大学 〒465-8515 名古屋市名東区平和が丘3-11

## 【平成26年度・中部ブロック研究会を終えて】

ブロックリーダー 米本倉基



平成26年1月10日・11日の2日間、名古屋の東山に位置する愛知東邦大学様において、今年度のブロック研究会が開催され、今回も、会員等30名、プレゼン・コンテスト出場学生8名のご参加をいただき、遠くは新潟からもお招きして大変賑わいのある研究会となりました。会場を快くご提供いただき、かつ、物心両面にわたりご支援を賜りました愛知東邦大学様の関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

さて、発表に先立って開催された総会では、ブロック運営委員の改選が満場一致で承認されました。

平成23年にそれまでサブリーダーだった私に、前リーダーの金城大学短期大学の岡野絹枝先生から次期リーダーにとご連絡をいただいたとき、大変驚いたことを思い出します。それから2期4年、なんとか任期を終えることができましたのも、ブロック会員の皆様のあたたかいご支援のおかげと厚く御礼申し上げます。

次期リーダーの手嶋慎介先生は、ブロック活動はむろんのこと、学会全体の助成研究においても見事にリーダーをつとめ、中部ブロックに手嶋ありと一目置かれる存在であります。この度、退任するにあたり、固辞する氏を無理やり口説き、お引き受けいただきました。今後とも変わらぬご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。4年間ありがとうございました。

## 【次期ブロックリーダーご挨拶】

愛知東邦大学 手嶋慎介



次期ブロックリーダーをお引き受けいたしました。現在まで積み上げられてきた伝統を継承しつつ、改善を重ね、ブロック運営を円滑に推進すべく精進してまいります。しかしながら、私だけの力では不十分であることは明らかです。サブリーダーをお引き受けいただく河合晋先生、加納輝尚先生をはじめ、次期運営委員の先生方とのチーム体制を強化していきたいと思っております。忌憚のないご意見を頂戴したく存じます。

2016年には、本ブロックでの全国大会開催という一大プロジェクトがあります。不安がないわけではありませんが、心躍るものもあります。近年の本学会の共通テーマのひとつに「PBL

(Project/Problem Based learning)」がありますが、全国大会の準備・開催は、「課題解決」「連携」「協働」といった様々な経験を通し、私たちの実践知を高める大きなチャンスでもあると考えます。ブロック運営委員会ばかりでなく、全国大会運営委員として多くの先生方にご協力賜りますようお願い申し上げます。

### 次期(平成27・28年度)のブロック運営委員

※敬称略

- |               |       |             |
|---------------|-------|-------------|
| ・ブロックリーダー     | 手嶋慎介  | (愛知東邦大学)    |
| ・サブリーダー(北陸地区) | 加納輝尚  | (富山短期大学)    |
| ・サブリーダー(東海地区) | 河合晋   | (岡崎女子短期大学)  |
| ・運営委員         | 西川三恵子 | (名古屋経営短期大学) |
| ・運営委員         | 若月博延  | (金城大学短期大学部) |
| ・運営委員         | 奥村実樹  | (金沢星稜大学)    |
| ・運営委員         | 岡野大輔  | (金城大学)      |

以上7名



## 研究発表【TBLによる専門演習の取組みの一試論】



加納輝尚  
(富山短期大学)

本研究の目的は、学生の専門能力及び汎用能力の同時育成を意図し、2013年度より専門演習で導入している学習法TBL(Team Based Learning)のより効果的なプログラムを検討することにある。「日商簿記検定2級にゼミ生全員が合格する」という到達目標に対し、導入初年次は33.3%の達成度にとどまった。その原因の一つに、チーム内での課題(問題)検討の際、理解度の高い学生が発言の中心になり、そうでない学生との乖離がみられ、取組みが不活性になった点が挙げられる。その改善案として、協同学習という学習法に着目し、とりわけ「教え合いの技法」に属する「ジグソー法」が、親和性の高い該当フローの代替案と判断できた。改変の効果等は、今年度の検定結果を待って判断し、今後、短期大学の教育に必要な資格指導をふまえ、より効果的なアクティブ・ラーニングによる専門教育プログラムを構築していくことが課題である。

## 研究発表【インタビューによるインターンシップ活動前後の意識変容について】



尾関智恵  
(東海学院大学)

本学で実施しているインターンシップの受講前後の受講生の意識変容について調査を行い、その過程や学習状況の評価が可能かを検討した。意識変容についてはインターンシップ受講者を対象にこれまで定点観測的に授業や面談内で行ってきたインタビューおよび質問紙の内容を用いた。この結果、質問紙においては進路希望に関する記述が2年次より3年次のほうが具体的記述となっており、自身の興味や特性に触れる記述も数件見られた。インタビューでは、実習後のインターンシップの捉え方が業務だけでなく組織を構成する人材の重要性に言及する内容が付加され、このことを知ったことに意義を感じる者が多く見られた。学習経過の検討のためにも引き続き情報収集し、授業構築の根拠として活用できるような仕組みを開発していきたい。

## 研究発表【地域企業・ジョブカフェと連携した大学ゼミナールの経営・キャリア教育事例】



奥村実樹  
(金沢星稜大学)

学生が在籍する「学」、協力企業の「産」、その両者の橋渡しをする「官」といった協力体制のもとに生まれた本取り組みは、今年で9年目を迎える。2005年に金沢大学を中心とした「いしかわ大学連携促進協議会」(現大学コンソーシアム石川)において企画され、2006年度からシティカレッジ科目として始まり、現在は金沢星稜大学にて実施されている。就業意識の向上と社会人基礎能力の習得を目指すことと、3・4年次の専門課程での主体的な学習を促す目的とから、主に1・2年次学生を対象とする。公的機関のウェブサイト作成を通して、企業と学生の共同作業を後押しするというイベントを内在させることで一定の教育効果を持ってきたこの活動はまた、「産」である企業にとってはウェブサイトでの自社の企業PRが計れ、「官」であるジョブカフェにとっては自身のウェブサイトの充実が計れるといったメリットを、「学」が提供できるという独自性も持っていた。

## 研究発表【『金城ビジネス学会』を通じての産学連携が学生に与える効果～社会人基礎力を中心に～】



若月博延・矢澤建明  
(金城大学短期大学部)

本研究では、『金城ビジネス学会』というゼミ活動を通じての教育効果について調査を行ってきた。今回は平成26年度の中間発表後に行われた調査を基に、活動時の産学連携の度合いによる学生への教育効果の違いについて研究を行った。まず産学連携活動を5分類し、活動の中で3分類以上を行ってきたグループを「高度な連携」、1、2分類のグループを「軽度な連携」、当てはまらないグループを「連携なし」として分析を行った。社会人基礎力の3つの力では、いずれも「高度な連携」で、力が付いたと高く評価するものが多かった。とくに「前に踏み出す力」における効果が最も高く、「考え抜く力」、「チームで働く力」と続いた。また、詳細項目では、「実地調査力」、「問題設定力」、「調査分析力」の評価が高い結果となった。今後の課題として、自己評価のジレンマの解決が挙げられる。教育効果をより正確に測るために、より客観的な基準を用いた効果測定をしていくことが必要となる。



## 基調講演 【人間関係づくりトレーニング ワークショップ】

林芳孝 先生  
(日本体験学習研究所)



## 研究発表 【産官学共同事業のカリキュラム化における課題】



河合晋  
町田由徳  
祝田学  
(岡崎女子短期大学)

本発表では、産学官連携事業である中小企業情報発信プロジェクトの取組みと課題を考察した。過去2年間のプロジェクトはゼミ課外活動であったため、①学生の作業進捗状況の管理が難しい、②参加する学生のインタビュー力、文章力等にバラつきがある、③2年次夏休みの活動であったため、得られた経験を就職活動に生かすことが難しいなどの課題点があった。そこで、平成26年度からは、①授業内での活動による確実な進行管理、②授業で指導を行うことにより、学生の能力差を縮小、③経験を就職活動等に生かすことなどを期待し、1年次必修科目としてカリキュラム化した。学生と企業へのアンケート調査の結果も踏まえ、上記課題は概ね解決できたと考えているが、①取材音声から文字起こしを行う時間の不足、②企業のプロジェクトに対する温度差、③習熟度の低さに伴う動画撮影の不備など、新たな課題が抽出された。「地域連携企画室」が設置されたことから、これら課題の克服についての方策を報告した。

## 研究発表 【医療事務および会計における資格取得支援について】

黒野伸子・河合晋 (岡崎女子短期大学)



黒野伸子  
(岡崎女子短期大学)

本発表は、学生の持つ「資格」に対する意識調査をもとに、短期大学での実務教育の在り方を考察したものである。ビジネス系学科における資格教育は、就職のためだけでなく、知識習得のための指針となり、学生のニーズに応えられる実務教育でなければならない。資格に対する意識調査で明らかとなったように、専門性の高いメディカルコースの学生も多様なニーズを持っている。学生のニーズに応え、効果的・効率的な実務教育の充実を図るためには、資格教育を包含した実務教育の実践が有効である。この点、本学科が平成26年度より導入した「ゆるやかなコース制」は、新しい教育体系として評価されるべきである。一方で、その利点を有効活用するだけの資格教育を通した実務教育のカリキュラム構築が図られていないことが問題である。高等教育機関で行う資格教育の是非や、そもそも資格取得を最重要視する学生ニーズが正しいのか否かの議論もできていない。以上を今後の課題とし、少なくとも前者については、平成28年度カリキュラム改編の際の重要資料として役立てたい。

## 研究発表 【1・2年合同授業の現状と課題】



川口直子・吉田智美  
(愛知学泉短期大学)

本学科では、カフェテリア履修というシステムで1、2年が合同で授業を開講し、10年目を迎えた。今後さらに有効な教育システムへの改善策を検討するための前段階として、合同授業について学生、教員に対してアンケート調査を実施し、考察の一助とすることとした。それらの結果から、教員側の不都合な点と指摘していた事に関しては、学生には不都合な面として映っていないことが分かった。さらに学生側は先輩や後輩の様子を見て、立場を自覚・認識し、「学校生活」、「授業態度」、「人間関係」などの面で意識、行動しているとの結果を得た。しかしながら、単学年授業にはない合同ゆえの授業運営の難しさが明確となった。さらに、単学年授業では横のつながりが密となるが、合同授業では「仲間作り」に時間がかかることも分かった。学習支援のみならず教員が学生一人一人の現状を把握し、よりきめ細やかな授業プログラムを作成し、運営していくことを課題とする。



## 【学生プレゼンテーション・コンテスト】

審査委員長 川口 直子(愛知学泉短期大学)

最優秀賞:佐藤 愛(新潟県立大学2年)  
優秀賞 :新庄優美子(富山短期大学1年)、橋場万由子(富山短期大学1年)  
奨励賞 :山田侑弥(愛知東邦大学2年)、川端進太郎(名古屋経営短期大学1年)  
横幕沙妃穂(名古屋経営短期大学1年)、小竹真央(金城大学短期大学部1年)  
村上沙季(金城大学短期大学部1年) ※エントリー順



中部ブロック恒例の学生プレゼンテーションコンテストは、本年度も、昨年度に劣らぬ意欲的かつ精力的な参加学生9名により、充実したものとなりました。まずは、彼らの準備に対する熱意とプレゼンスキルを磨くための練習努力に拍手を送ります。発表内容は、近年多く取り上げられています「インターンシップ」、「ボランティア活動」をメインテーマとして、何を行い、何を得、何を考えたか、をPPと巧みなスピーチで、聴く者を惹きつける質の高いものでした。新しいものに取り組む姿勢、困難なことに挑戦する姿、そして、活動により自分に自信が持てるようになったことなど、体験から社会人力・人間力を身に付けたことが十分に伺えました。審査ポイントは、例年どおりで、

①説得力・印象②内容③コミュニケーション力④機器操作の4項目で5段階評価を行いました。全学生が力を出し切った発表でしたので甲乙つけ難いものとなりました。その中で、優秀賞となった学生は、その笑顔・明るい声・明確な発音、内容に合った話し方・ジェスチャーなどの基本要素をクリアしており、スムーズさとさわやかな印象を残しました。参加学生のみなさんが、このコンテスト参加をきっかけに、自分で考え、表現することの喜びを得て、今後ますます成長されることを心から願っています。最後に、学生指導にあたられました先生方のご努力に敬意を表します。

## 【南国 薩摩 鹿児島 全国大会に参加しよう!】

- 1 【2015年全国大会】に参加しよう! 第1号通信がすでに送られました。  
〈日時〉 2015年6月13日(土)10:00~14日(日)12:05  
〈場所〉 鹿児島女子短期大学 (鹿児島市高麗町6-9)  
〈統一テーマ〉 ビジネス実務教育の新たな展開

- 2 【6月の全国大会 指定ブロック代表報告】  
産学官共同事業の取組みと課題について  
岡崎女子短期大学 河合 晋 先生



- 3 【学会本部 役員改選】  
6月の学会総会で学会役員が任期改選され、池内健治学会長がご退任される予定です

## 【編集後記】

ブロック・サブリーダー 國田 千恵子(金沢学院短期大学)



愛知東邦大学名古屋キャンパスの真新しい校舎を会場に、平成26年度中部ブロック研究会が開催されました。基調講演では、『人間関係づくりトレーニング』をテーマに、ワークショップを交えながら、お話をいただきました。研究発表では、学生の主体的な学び、能動的な学習方法の実践事例など、キャリア教育の発展に繋がる数多くの知見が得られたと存じます。ご発表くださいました先生方に、改めて深謝申し上げます。

最後になりますが、今期をもちましてサブリーダーを退任いたします。ご指導ご高配を賜りました会員の皆様へ、心より御礼申し上げます。ありがとうございました。